

避難勧告、指示などの発令基準

警戒レベル	住民が取るべき行動	避難情報等	避難行動の判断に参考となる情報
5	既に災害が発生している状態 命を守るための最善の行動	災害発生情報	氾濫発生情報 大雨特別警報（浸水害・土砂災害）
4	全員退避 （対象地域）	避難勧告 避難指示（緊急）	氾濫危険情報 洪水警報の危険度分布（非常に危険） 土砂災害警戒情報 土砂災害に関するメッシュ情報 （非常に危険・極めて危険）
3	高齢者・要配慮者等は避難開始 それ以外の人も避難準備を始め、自発的に避難する	避難準備 高齢者等避難開始	氾濫警戒情報 洪水警報 洪水警報の危険度分布（警戒） 大雨警報（土砂災害） 浸水害・土砂災害に関するメッシュ情報（警戒）
2	避難に備え、避難所への道や 持ち出し品を確認する	洪水注意報 大雨注意報	今後の雨（15時間迄） 氾濫注意情報 洪水警報の危険度分布（注意） 土砂災害に関するメッシュ情報（注意）
1	災害への心構えを高める	早期注意情報（警報級の可能性）	警報級の可能性

水害発生メカニズムと被害特性

●水害発生メカニズム

堤防決壊は、越水、洗堀、浸透の3つの主な原因から生じます。それぞれのメカニズムや特徴について覚えておきましょう。

越水	
洗堀	
浸透	

●堤防決壊のイメージ

大雨によって川の水が増え、水かさが増え始める。	堤防いっぱいまで水が増え、堤防に水の圧力がかかり始めます。	水が増え、水の力に堤防が耐えられなくなり、堤防の一部が崩れ始めます。	崩れた場所は一気に崩れ、勢いよく水が流れ出し、家などに襲いかかります。

雨の降り方と災害の危険性

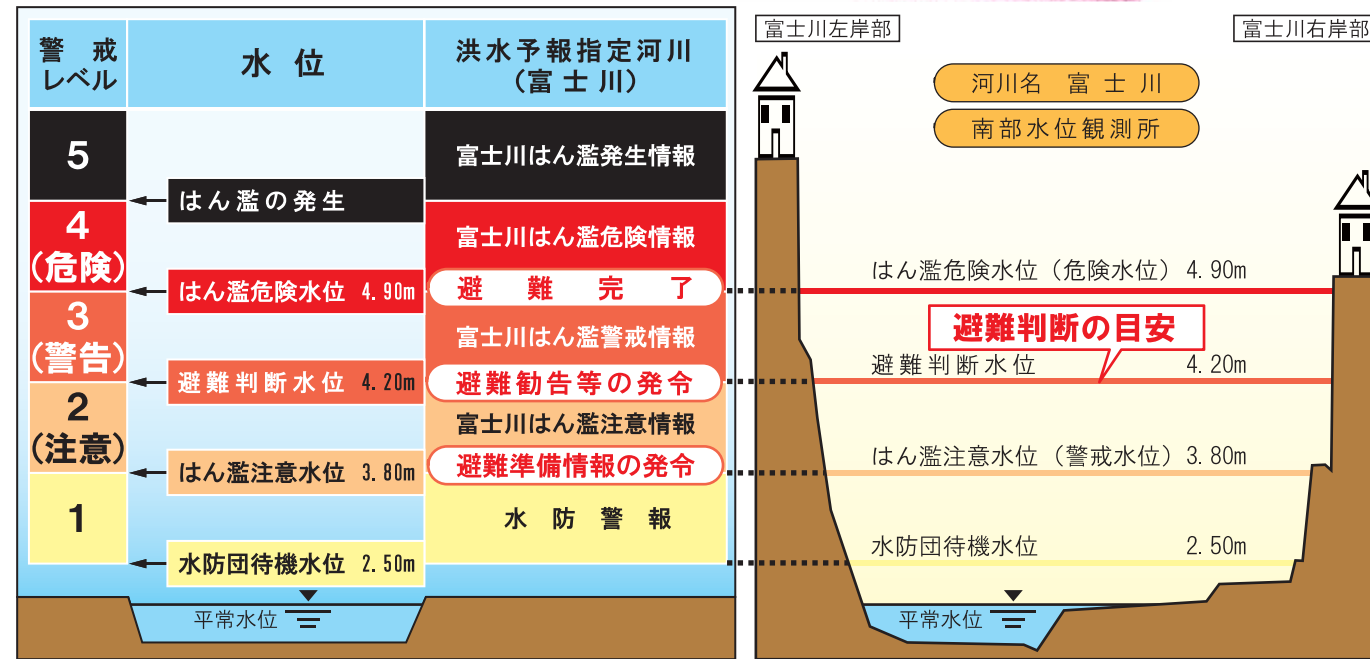
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量が10mm~20mm	1時間雨量が20mm~30mm	1時間雨量が30mm~50mm	1時間雨量が50mm~80mm	1時間雨量が80mm以上
地面一面に水たまりができ話し声が聞き取りにくくなります。長雨になりそうなら警戒が必要ですよ。	土砂降りの雨。傘をさしても濡れてしまうほどの雨です。下水があふれ、小川川のはん濫やけが崩れの心配もあります。	バケツをひっくり返したような激しい雨。山崩れが起こりやすくなります。道路規制も行われます。避難の準備を。	滝のように降り、あたりが水しぶきで白っぽくなります。大雨による大規模な災害の発生する可能性が高まります。車の運転は危険です。	息苦しくなるような圧迫感がある恐怖を感じます。大雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。避難勧告が出る場合があります。

※数年に一回程度しか発生しない短時間の大雨の場合は「記録的短時間大雨情報」を発表します。この情報が発表されたときは、お住まいの地域で、土砂災害や浸水害、中小河川の洪水害の発生につながる猛烈な雨が降っていることを意味します。

避難時の心得と注意事項

<p>●お年寄りなどの避難に協力を</p> <p>お年寄りや子供、病気の人などは、早めの避難が必要です。近所のお年寄りなどの避難に協力しましょう。</p>	<p>●自宅待機も避難です</p> <p>0.5m未満の浸水が想定される範囲の方は、浸水している中をむやみに歩くのは危険なため、自宅（できれば2階以上）で待機・避難しましょう。</p>	<p>●氾濫水は勢いが強い</p> <p>氾濫水は、勢いが強く水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難です。緊急避難として、高い堅牢な建物にとどまることも選択肢の一つです（津波の場合を除く）。</p>
<p>●動きやすい服装、2人以上での避難</p> <p>避難するときは動きやすい服装で、2人以上での避難を心がけましょう。</p>	<p>●車での避難は控えて</p> <p>車での避難は緊急車両の通行の妨げになります。また、交通渋滞をまねき、浸水すると動けなくなりますので特別な場合を除き徒歩で避難しましょう。</p>	<p>●はぎもの</p> <p>素足や脱げやすい靴は危険です。長靴は水深が深いと中に水がたまり、動きづらくなります。ひもで縛れる運動靴が最適です。</p>

警報等の発表基準



※浸水の想定条件

このハザードマップに掲載している洪水浸水想定区域は、右の表にある降雨条件の際に、富士川で想定される最大浸水深を表しています。

対象河川名	降雨条件	実施機関
富士川	富士川上流域：632mm/48時間	国土交通省
	富士川下流域：565mm/48時間	

情報の伝達経路

